平成25年 第6回 伊丹市教育委員会 定例会 会議録

1. 日 時 平成25年6月20日(木) 午後2時00分～午後3時25分
2. 場 所 総合教育センター 2階 講座室
3. 主 宰 者 委員長 滝内 秀昭
4. 委員の出席 滝内 秀昭 廣山 義章 小林 万理子 木下 誠
5. 委員の欠席 川畑 徹朗
6. 傍 聴 人 なし
7. 関係者の出席
教育長	木下 誠	学校改革・学事課長	大村 寿一
管理部長	谷澤 伸二	学校給食センター所長	松浦 洋一
学校教育部長	太田 洋子	スポーツ振興課長	谷 泰史
生涯学習部長	田中 裕之	図書館長	田中 茂
教育長付参事	堀口 明伸	公民館長	池田 真美
学校教育室長	峰松 誠治	博物館長	亀田 浩
総合教育センター所長	江原 礼子	人権教育担当主幹	松山 和久
学校教育部副参事	村上 順一	生涯学習部主幹	善入美津治
生涯学習部副参事	小長谷正治	学校指導課副主幹	垣内 修
人権教育室長	大野 浩史	学校改革・学事課主査	今村 貴子
学校教育部副参事	岡田 章	少年愛護センター主査	米田 博一
職員課長	升井 竜雄	教育総務課長	中井 秀典
教育施策企画担当主幹	花光 潤一	教育総務課副主幹	乾 義昭
学校指導課長	春名 潤一	教育総務課	山本 逸美

開会宣言

8. 議 事

(1) 開会宣言 滝内委員長(午後2時00分)

(2) 日程報告 滝内委員長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員これを了承。

日程第	1	前回会議録の承認
日程第	2	教育長報告
日程第	3	議案第35号の審議
日程第	4	議案第36号の審議

滝内委員長から「議案第35号、議案第36号は人事案件であるため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条6項の規定に基づき非公開にしたいと思いますが、よろしいでしょうか」との発議があり、全委員はこれを了承。

議案第35号、議案第36号は非公開の秘密会となる。

(3) 前回会議録の承認（日程第1）

平成25年第5回伊丹市教育委員会定例会（平成25年5月23日〈木〉開催）の会議録については、全委員一致でこれを了承。

(4) 教育長報告（日程第2）

教育長の指示により、管理部長より「6月分人事報告」・「5月分教育施設関係工事の着工・竣工報告」・「5月分寄附採納報告」について、学校教育部長より学校教育部の、生涯学習部長より生涯学習部の、人権教育室長より人権教育室の、「5月分行事実施報告」「7月分行事実施予定」について、それぞれ説明があり、質疑応答の後、全委員一致で「教育長報告」を承認。

質疑応答

木下教育長

5ページ、30日の第2回中・高・特別支援学校生徒指導担当者会について。前回の教育委員会定例会の時に不登校の状況について質問した。その中で昨年度中学校において不登校が大幅に増加し、特に多かった2校については大きな課題として、昨年度末にプロジェクトチームを組み、解決策を打ち出して取り組んでいるとの報告があったが、今年5月の前年比と状況を教えてほしい。

春名課長

昨年度の不登校に関する課題と、現在の状況について、①市内全体の状況、②今年度当初に打ち立てた不登校に対する方針、③昨年度の課題である2校の3点から報告する。

1点目、平成24年度は長期欠席者が238名おり、うち不登校とされる者が145名いたため、非常に大きな課題とされていた。因みに、定義として、欠席日数が30日を超えた者は、長期欠席者として計上し、そのうち、不登校を理由とする者について不登校としている。平成25年5月末現在では、長期欠席者が53名、うち不登校が48名と計上されている。昨年同期は、長期欠席者47名、不登校34名だったため、現在と比べると長期欠席者は6名増加、不登校は14名増加している。

2点目、今年度の不登校児童・生徒についての指導方針ですが、まず、全体として「居場所のある魅力ある学校づくり」あるいは「わかる授業の実践」等、各学校において不登校を生み出さないための学校づくりに取り組んでいる。生徒指導担当者会においては、特に、3つの方針を立てている。

1番目は「不登校児童生徒を出さないための伊丹市共通実践事項」の徹

底について、昨年度に引き続き今年度も共通認識とした。これは「伊丹の教育」にも参考として載せている。1日目の欠席は家庭からの連絡を確実に担任に報告し、家庭からの連絡が無い時は担任が1校時の授業前に電話で連絡を取る。2日目の欠席は家庭からの連絡の有無に関わらず担任が電話で連絡を取る。3日目の欠席は家庭からの連絡の有無に関わらず担任が家庭訪問をする。このように、少なくとも3日間学校を休んだ場合については、担任が家庭訪問をするを共通認識とした。

また、今年度は約20%の不登校生徒を減らすことを、数値目標として掲げており、その根拠が2番目と3番目にあたる。

2番目として、今年度は、前年度の不登校生徒の欠席日数より減少させる。例えば前年度、100日欠席している不登校生徒がいれば、何とか取り組んで、80日、50日に減らさせ、学校に来させるようにする。ただし、そういう取り組みをしても、30日以上欠席するということはありうる。この場合は、数値としては現状維持でもやむを得ないが、進級後に前年度は不登校でなかった者が、新たに不登校になるということがないように、細やかな対応をしてほしい。例えば、今の中学校2年生であれば、中学校1年生の時に欠席がちであったり、遅刻がちであったり、あるいは保健室に行きがちだったりする等の細かな兆候を捉えて、進級後、欠席をする前に細かな声かけ等をしてほしいと言っている。

3番目として、伊丹市では、小学校6年生においては不登校児童が、各学校に1桁あるか無いかというところが、中学校1年生では不登校生徒が、10数名と、大幅に増加する現象がほぼ共通して見られる。中学校1年生については小中学校の緊密な連携、例えば先ほど述べた通り、小学校6年生で保健室に行きがちであった、担任からきめ細かなケアが必要であった等の細かな情報を交換することにより、前年度1年生の不登校生徒の半減を目標にしている。

これらの事について生徒指導担当者会で4月、5月にお願いをし、結論から言うと、今年度については減少率が20%に達しない程度になると見込んでいる。目標としては、3年かけて市内全体の不登校率を半減させる事を考えている。

3点目としては、昨年度の課題であった2中学校の現状だが、荒牧中学校については平成24年度の長期欠席者は52名、うち不登校は30名であった。平成25年5月末現在で長期欠席者について、1年生0名、2年生5名、3年生4名で9名計上されている。昨年度同期は1年生1名、2年生5名、3年生3名なので、同数である。ただし、1年生では現在不登校生は計上されていない。南中学校については平成24年度の、長期欠席

者は32名、うち不登校が30名と計上されていた。平成25年5月末現在で1年生0名、2年生9名、3年生1名で10名の長期欠席者が計上されている。昨年は1年生1名、2年生2名、3年生4名で計7名であったので、2年生、3年生は昨年に比べれば増加している。

まだ4月現在の情報しか入っていないが、もう少し細かく見ていくと、不登校には計上されないが、新年度を迎えた4月の10数日間の出席日数のうち7日以上欠席した者に着目した場合、荒牧中学校では1年生0名、2年生10名、3年生15名。今後、この2年生の10名と3年生の15名は、不登校に計上される可能性が非常に高いとみている。南中学校については1年生2名、2年生11名、3年生2名となっている。まだ、2年生、3年生の不登校が減少するかどうか分からない。

現時点では、昨年同期に比べ上回っているが、どこも1年生は非常に少ない数におさえられているので、今後推移を見守る必要がある。昨年度の傾向を見ると不登校生徒は9月末、10月にかなり増加しており、2学期当初の時点でどのような取り組みをしていくか、1学期にある程度の芽があるとするなら、1学期にどのように取り組むかも含めて検討していく必要がある。今、課題に上げた2つの中学校における取組として、荒牧中学校については、プロジェクトチームを生徒指導担当者会議及び教育相談担当者、スクールカウンセラー、不登校担当、特別支援コーディネーター、校長、教頭で構成し、週に1回会合をもち、現状把握や細かな分析を行い、対応策を練っている。今後、夏季研修会の開催も検討している。南中学校については未然防止策に力を入れようとしており、道徳教育の充実、小中連携、学校アドバイザーによる指導助言、不登校生徒に特化した研修、等を現在取り組み中です。またアドバイザーの田中シゲ子先生の研修を、南中学校では実施済み、荒牧中学校は計画している。先ほども言ったが、未然防止が不登校生徒を出さない一番の策であると考えている。不登校については、既に計上されているため、両校の動きについては今後も指導主事を派遣する等して情報を把握し、具体的なアドバイスをしていくことで対応していきたいと考えている。

木下教育長

いろいろ説明を聞いたが、同月比で昨年は34名で今年は48名。14名増え、40%増加した現実を直視しなければならない。様々な対策を取ってきたが、5月の時点でこれだけ不登校が出ていては、授業日数から考えても、私は何も改善できていないのではないかと思う。都市教育長協議会においても、不登校については言われており、中一プロブレムを無くすために小中一貫教育を進めているという発表があった。真剣度が違う。教育を受ける機会が奪われており、その数が昨年度増えている。それに対し

て加配も付け、プロジェクトチームを組み、解決策を出して取り組んでいる。その解決策が功を奏しているのかチェックしなければならない。チェックして、出来ていないなら新たな策を講じなくてはならない。5月の時点で不登校が40%増えているなら、更にしっかりと取り組んでいかなければならない。これはいじめと一緒に、学校を孤立させず、いろいろなアドバイスをしながら適切な対応策を再度示して見守ってほしい。6月にもう一度、状況と、どのような新たな対策を示し取り組んだのかを教えてほしい。

太田部長 1点補足します。4月は30日ないため、不登校は、今回の5月分の調査で初めて数に現れる。昨日、南中学校の校長と直接話をしてきた。校長の経営目標の中に、「3割減の22名まで不登校を減らす。」という項目があるが、具体的に何をするのか聞くと、そこがなかった。そこを今月中に必ず提示してくださいという形で話は終わったが、先ほど教育長が言われたように、本気でなくそうと思ったら真剣に取り組まなければいけない。私たちがスルーしてはいけませんので、細かく進捗状況を確認し、担当指導主事や課長が学校に行き調べながら、必要に応じて学校問題解決支援チームを派遣するという事も考えていきたいと思う。

廣山委員 昨日、そういう問題が発覚していると聞いた。プレス発表がなされるとかなされないということを気にする前に、それぞれの学校が実態を踏まえながら、前年度はどのように取り組み、今年度はどのように個々の生徒に取り組んでいるのか、どのように対策を講じてきたのかが大事。ただ、あがってくる数値だけを羅列していても解決にはならない。それらに対する取り組みが甘いのか、駄目なのか。もう退職されたが、校長の中に、自分のいた学校の不登校を0にした方がいる。その校長は、在職中に明言し、全教職員あげて取り組んでいた。何か問題があると夜の8時でも学校に残っている先生方が一斉にそこに駆けつけて、子どもの問題を掘り下げていくようにしていた。これは勤務の実態からすると非常に大変な取組だが、自分の在職期間中に不登校の生徒が0であると明言できる校長であってほしいと思う。今回の件も、かなり以前から放置されている面がある。放置といえば言い過ぎだが、取り組んだ結果がそうなのか、それとも置いているうちにそうなったのか。そのようなことを、つぶさに検証する姿勢が求められてくるのではないかと。

小林委員 人数が非常に多くて大変驚いた。ずっと通えていたのに、通えなくなる子もいるのか。小学校の時から家庭環境等の事情もあってというのであれば、中学校だけでは問題が解決しないのではないかと。こういう現状を、中学校と教育委員会だけが話すのではなく、小学校も含めて話をしていかな

いと解決に至らない。最初に芽を摘もうと思うと、小学校の時点でもう少し気にかけて、対策を打っていかねばいけないのでは。中学校に入ってから来られなくなったのであれば、中学校の問題も大きいですが、それだけではないと思う。中学校が努力しても無くならない部分は、分けて考えなければいけないと思う。

木下教育長

小学校では0.2%位の発生率だが、中学校では10倍くらいになる。ということは、欠席がちでも不登校ではないが、不登校の芽があり、中学校に入った途端にその芽が育つ。そこで中一プロブレムというものが注目され、全国の学校が小中連携ではなく、小中一貫の教育に取り組んでいる。教育を受ける権利を保障するという事は非常に大事なことである。その子が有為な人材に育つ為には、学校に来ていなくてはならないのに、それを見過ごしている。こういうことについて、何らかの手立てを取っていくのが教師の使命である。しっかりと小中学校連携して、情報交換し、共通した取り組みをやっていくと共に、0にしていった学校等の具体的な成功例を調査し、所属職員に周知して取り組むという動きが出なければならぬ。大きな課題だとプロジェクトを組んで解決に乗り出していると言っても、解消されていないどころか倍になっていては、机上の空論でしかない。そういうところをしっかりとチェックし、バックアップしてほしい。

滝内委員長

ゴールデンウィークや運動会シーズンになれば、増えていくのは目に見えているが、全てが学校の先生で対応できないのは、今までからわかっている。最初に言われている家庭の問題や学力の問題で学校に行かなくなる。家庭の問題であれば、今のうちならSSW（スクールソーシャルワーカー）を派遣する方法も使えるから、そこから関係を作っていく。小学校で問題があれば、中学校で更に問題化していくはずだから連携してもらいたい。それと、中学校になると学習進度が速くなるためにわからなくなって、学校に来なくなる子もいるだろうから、早めに小学校の補習をするようなシステムも整えてもらいたい。最後に、来なくなって事件等になると、必ず悪い友達というように結論づけられるので、芽を大きくしない取り組みもプロジェクトチームで検討していただけるとありがたい。

春名課長

昨年度末に報告させていただいた事や、先ほど数字であげたのは、既に不登校になってしまった生徒。彼らがこれ以上欠席しないように働きかけていくことは、当然学校側も担任が中心でやっている。だが、これから不登校になりそうな子をきっちりと小中学校の連携を踏まえ、見分けて声かけをしていくことも必要だと、先ほどのご指摘の中で考えさせられた。夏休みにいろいろな研修会を実施するのでそのような機会でも伝えたい。また、現在、昨年度の数値を上まわる学校が4校ある。それらの学校につい

ては学校教育部長が申し上げたとおり、学校指導課より、情報収集や校長に指導助言させていただきたいと考えている。

滝内委員長

「ことば蔵」の開館1周年記念事業について。1年経ったのかと思うと感慨深い。それぞれのシンポジウム、記念交流事業、カエボン等々今まで行ってきたものを、更に発展してもらい、広く市民との関わりを持っていくことは非常に大事。できれば、これと共に、図書館の本来の機能である本の貸出について、例えば、IC タグを付けることで伶俐に冊数を集計できるようになり、この1年間のベスト100とかベスト50の集計は労をかけずにできると思うので、パネル展をする等してもらいたい。また、一番の売りであった立体書庫の活用も、一般ではなかなか見られないので、莫大なお金をかけているが、地下に眠っているイメージがついても困るので、フローチャートにして、このように早くなったということを、1周年で展示してもらえばありがたい。これは要望。

木下教育長

「ことば蔵」には3つの機能があるが、中心となる図書館機能について。先日の神戸新聞で11年度の県公共図書館の貸出密度が掲載されていて、猪名川町が23.3冊で一位だった。ベスト10の発表もあり、周辺では三田市が5位、芦屋市が9位だった。県図書館協会が集計をしているから、伊丹市も対象になっていると思うが、伊丹市は1人当たり何冊くらいで、どの辺りの位置にいるのか、また、近隣市の状況も教えてほしい。

田中部長

貸出密度は、1年間に借りられる本の数を人口で割ったもの。伊丹市の場合、1年間で140万冊借りられているので、人口20万人弱で割ると7.1冊になり、先ほどの市町の中では15位になる。先ほど紹介があったように、三田市が5位で猪名川町が1位だが、人口で割るため、人口の少ない市町が必然的に高くなる傾向がある。近隣市では宝塚市が10位、西宮市が12位、川西市が24位、神戸市が31位、尼崎市が35位という状況。

また、各図書館で貸出する本が一度につき10冊までという市もあるが、伊丹市の場合は30冊までで3週間以内に返却していただくので、10冊までで2週間以内に返却の場合とでは、回転の差も出てくると思う。

猪名川町を分析すると、駐車場が1日駐車しても無料なので、川西市からも来館されている。一概に評価は難しいが、これらは一定の目安にはなる。伊丹市は15位ということだが蔵書数等を増やして少しでも順位を上げたいと思う。

木下教育長

猪名川町は伊丹の3倍の本を読んでいるということか。

田中部長

はい。1年間に23冊なので3倍。

木下教育長

伊丹は本館だけではなく分室も合わせて140万冊、これを3倍にしよ

うとすると、420万冊読まないといけないという計算になる。

田中部長

今はイオン昆陽店の駐車料が無料のため、中にある西分室でゆっくり本を探す方も増えているので、蔵書数を増やす計画も持っている。駐車場の問題でいえば中心市街地では有料になっている。

木下教育長

西宮市は伊丹市より人口が多いのに上。

田中部長

同じ7冊台だが、7.8冊で12位。

木下教育長

「ことば蔵」には交流機能や歴史・文化を発信・体験する機能もあるが図書館機能というのは心づくり等様々なものに大きく影響する。ライブラリー・オブザイヤーを狙うのであればこの辺りもやってほしい。

田中館長

猪名川町は伊丹市の3倍ほどで、人口は伊丹市の3分の1に満たない。伊丹市の場合は3週間30冊ということで阪神間の中では一番長く、たくさん本を借りていただいている。西宮市では15冊までで2週間以内に返却というように、冊数が少なく期間が短いために回転率が上がっている面もあると思う。図書館の資産は本なので、その回転率をいかに上げるかというのは一つの使命だと思う。少しでも回転率が上がるようにしたい。

廣山委員

小野市は何位くらいか。

田中部長

小野市は3位、13.6冊です。

廣山委員

私は学校図書館の動きに関わらせていただいたことがあるため、教育委員会の目標がこんな冊数でいいのかといつも思う。学校の取組、学校図書館の年間利用の目標値が低い。今日、緑丘小学校訪問の報告をするが、1年間で1人50冊を読破しようという目標を立て、9割方目標を達成している。猪名川町、小野市、西宮市とみ比べると中学校時代、小学校時代から、もう少し質の高い取組をしている。少し目標値を高める方向に動いてほしい。しっかりと取り組んだ学校はぐんぐんと成果を上げているし、実際にできると思う。それは風土のようなもので、学校の中に雰囲気があればできていく。伊丹市には、図書館が5階の隅の方に置かれていることが長く続いたが、図書館は学校のメインの場所に持ってきて、子どもたちが動きやすいようにしてあげないと本来は上手くいかないものだと思う。それは大人側、教師側の考えが至っておらず、図書館より自分の授業の方がいいと思っているが、そんなことはない。授業で得られる知恵より、読書で得られる知恵の方が人間にとってどんなに大きいか。学校が呼びかけていくとどんどんやる。猪名川町は、小さい地域だからできたのだろうと思うが、どんどん活用し、図書の充実、市民への啓発も含めて、いろいろな努力を、町を挙げて取り組まれた結果。良い取り組みになるように、もう少し行政目標も目標値を上げていくようにもっていかないといけないのではないかとつくづく感じる。

木下教育長 「ことば文化都市」を標榜して、ことば科を作ったり、ことば蔵を作ったりするなど型はできているが中身がない。もう少し中身を充実させていかななくては、他市へ自慢でき、打ち出せるようなものでなくなってくる。これからは改善していかなければいけないと思う。

滝内委員長 中身というときに、それは見えるものでないといけないとすると、図書館長であったり、博物館長であったりするような「人」だと思う。中身がないというのは、学校でいうと校長や教頭が見えないということ。このプロジェクトを誰がやっているのか、目に浮かぶのは図書館長ではなく、それぞれ1年間やってこられた人の顔だ。田中図書館長の顔が浮かぶようなプロジェクトもここにに入れていただきたい。それは「全ての図書は私にお任せコンシェルジュ」でも構わないし、表に出てくるような何かを作っていかないとそこの色が見えてこない。このプロジェクト全てに色があるがそこには図書館の色ではなく、公園のような図書館のイメージばかり。「カエボン」や「帯ワングランプリ」というのも一つの群だと思うが、そういう方向でまず、パネルに顔を出してもらい、着手してもらえればありがたい。要望です。

小林委員 毎回言っているが、駅前の駐車場に関して。先ほどの猪名川町の駐車場が無料だから行く、イオンモール昆陽店内の西分室も駐車場が無料だから行くという。そういうところからの取っ掛かりで本に触れていく機会が増えると思う。難しいとは思いますが、30分でも1時間でも、ことば蔵の周りの市営駐車場が無料になるように働きかけてもらえたらそこに通う人が替わってくると思う。徒歩圏内で来られる同じメンバーだけでなく、イオン昆陽店の中の西分室の小さい分室にしか行けない人も、1時間あるのならことば蔵に通ってみようと思うかもしれない。是非前向きに検討してもらいたい。

滝内委員長 春名課長にもう1点だけ。自然学校、転地学習、修学旅行等のシーズンになってきたが、先ほどの不登校の絡みで欠席者が何人いたかを報告してもらえれば1つの指標にもなると思う。事件は欠席しているときに起こるという事もあるので、何人休んだか、また、その理由もわかれば各校に尋ねてもらいたい。

(5) 議案第35号、36号の審議（日程第3、日程第4）

秘密会での審議の後、全委員一致で、「議案第35号 伊丹市学校教育審議会委員の委嘱または任命について」及び「議案第36号 伊丹市立少年愛護センター運営協議会委員の委嘱または任命について」を可決。

(6) 閉会宣言

滝内委員長 (午後3時25分)

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育委員会委員長

滝内 秀昭

伊丹市教育長

木下 誠